

## 平成 28 年度上半期 白血病・リンパ腫委員会活動報告

### (1) 稀な白血病に関する調査

学会での研究承認を得た上で、学会登録データ 2006 年～2013 年診断 ALL 中の不明症例及び稀な白血病で、疾患登録委員会を通じて、PTOSH に依頼したところ既に下記の 186 例が抽出された。2015 年 9 月に二次調査も全て終了し、以下の症例について現在データクリーニングして委員で分担しデータを解析した。今年度の日本小児血液・がん学会で二次がんについては発表予定であり、今後も稀な白血病に関する結果をまとめる予定である。

AUL	Mixed	NK	顆粒球 肉腫	BPDCN	tAL	HES	肥満細 胞腫	計
19	45	19	8	6	76	7	0	180

### (2) 「小児白血病・リンパ腫の疫学研究」

研究実施計画書が学会臨床研究倫理審査で承認を受けた。PTOSH に依頼して、データを入手したが、予想以上に欠損値が多く解析に難渋している。本年度中には臨床研究症例に限定されない日本全体の小児白血病リンパ腫の実態と生存率などの疫学データを解析発表の予定である。

### (3) CLIC (Childhood Leukemia International Consotium) との共同研究

CLIC の基本はケースコントロールのデータベースを持ちより、プール分析で十分な検出力を有する小児白血病の病因に関する研究を行うこと、国際的な小児白血病の臨床的・疫学的な特徴を比較することなどが主要な目標である。現時点で日本ではケースコントロールデータを有さないために、そのままの参加は不可能である。現在 CLIC とは別枠でケースのみを対象にしたアウトカム研究を計画中であり、日本も参加可能性があり、事務局と継続審議交渉中である。日本におけるケースコントロール研究について Kevin Urayama が研究計画書を現在作成中で、既に準備を始めている。本委員会も積極的に小児白血病に関する国際疫学共同研究をめざす予定である。

(文責：埼玉小児医療センター 康 勝好)